

琉球大学学術リポジトリ

コロナ感染症流行下における中学生の学校適応感について

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2022-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田場, あゆみ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002019461

コロナ感染症流行下における中学生の学校適応感について

田場あゆみ*

School adaptation of junior high school students during a COVID-19 infection epidemic

Ayumi TABA*

問題と目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月初旬に第1例目の感染者が報告されたから、わずか数ヶ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった（国立感染症研究所、2020）。学校現場ではこの流行を受けて、2020年2月28日に小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に対して一斉臨時休校の通達が出され、全国の学校で同年3月2日から休校措置がとられた。新型コロナウイルス感染症の対応についてそれまでに経験したことがない取り組みが求められたことで、学校現場は対応に苦慮した（鈴木・佐藤・仁昌寺・川上・東、2021）。休校措置の後から体調不良を訴える子どもたちが増加した（藤井、2021）という報告もあり、子どもたちはコロナウイルス感染症流行前のように学校に通うことや友達や教師と接することができなくなり、学校生活は大きな変化を余儀なくされた。

そこで本研究では、2020年3月の全国一斉臨時休校から1年4ヶ月を経過した2021年7月において、変化した学校生活のある程度経験した子どもたちの学校生活への適応について検討することを目的とする。

方法

調査協力者：沖縄県内の公立中学校4校の中学1年生～3年生826名

調査時期：2021年7月上旬

2021年度において調査協力者の学校では4月か

ら県や市町村の臨時休校が複数回あった。本研究の調査時期は当時最後の休校明けから約1ヶ月経過していた頃である。

調査方法：質問紙を配布し、各学級で回答を求めた。

質問紙：

1) 新型コロナウイルス感染症流行前後での学校の楽しさ

「新型コロナウイルス感染症が流行する前（2つ前の学年）の学校は楽しかった」、「今年度、学校は楽しい」の2つの質問項目を設定した。評定方法は「とてもあてはまる」（4点）～「まったくあてはまらない」（1点）の4件法である。

2) 新学校適応感尺度Fit

本尺度は小杉（2014）が作成したもので、7つの下位尺度・合計25項目で構成されている。①友人関係：「悩みを話せる友達がいる」など4項目から成る。②安心感：「クラスに居づらいつ感じることがある」など4項目から成る。③生活満足：「楽しく毎日を過ごしている」など4項目から成る。④教師支援：「困ったときに自分を助けてくれる先生がいる」など4項目から成る。⑤家族支援：「家に帰るとほっとする」など3項目から成る。⑥学業進路：「授業についていけないのではないかと不安になる」など3項目から成る。⑦社交性：「友達が話しているところに気軽に入ることができる」など3項目から成る。評定方法は「よくあてはまる」（4点）～「あてはまらない」（1点）の4件法で、安心感尺度と学業進路尺度は逆転項目である。

* 琉球大学教育学部 学校教育専攻 教育実践学専修 講師

結果

協力者の概要

協力者の概要は表1のとおりであった。新型コロナウイルス感染症流行前と今年度（調査時点）の学校の楽しさを4群に分け、1群（コロナ流行前も今年度も学校は楽しい）、2群（コロナ流行前も今年度も学校は楽しくない）、3群（コロナ流行前学校は楽しかったけれど、今年度は楽しくない）、4群（コロナ流行前学校は楽しくなかったけれど、今年度は楽しい）とした。学校の楽しさ、学年、性別で整理した協力者の概要を表2に示した。

学校適応感の記述統計

学校適応感の下位尺度の平均値と標準偏差を表3に示した。

表1 協力者の概要（人数）

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	150	117	146	413
女子	134	135	144	413
合計	284	252	290	826

学校適応感の分散分析

学校適応感の下位尺度について、性別、学年、学校の楽しさごとの差の有無を検討するために、下位尺度得点の分析を行った。表2に示したように度数1のセルがあることから、性別×学校の楽しさ、学年×学校の楽しさで二要因の分散分析、Tukey法で多重比較を行った。なお、学校の楽しさは協力者の概要で示した学校の楽しさ別群に則り、1群（コロナ流行前も今年度も学校は楽しい）、2群（コロナ流行前も今年度も学校は楽しくない）、3群（コロナ流行前学校は楽しかったけれど、今年度は楽しくない）、4群（コロナ流行前学校は楽しくなかったけれど、今年度は楽しい）に分けた。

表2 学校の楽しさ、学年・性別による人数

学年	性別	学校の楽しさ別群				合計	
		1群	2群	3群	4群		
1年	男子	135	1	4	7	147	279
	女子	106	3	13	10	132	
2年	男子	95	5	11	4	115	245
	女子	114	2	13	1	130	
3年	男子	105	7	18	11	141	283
	女子	110	3	18	11	142	
合計		665	21	77	44	807	

「学校の楽しさ」無回答者数は19名

表3 学校適応感下位尺度の記述統計

	n	友人関係		安心感		生活満足		教師支援		家族支援		学業進路		社交性	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
男子	403	14.26	2.41	14.27	2.72	13.67	2.52	13.58	2.50	10.65	1.62	8.83	2.60	10.34	1.84
女子	401	14.37	2.57	13.52	2.95	13.16	3.02	13.26	2.76	10.65	1.70	8.75	2.61	9.80	2.08
1年	266	14.20	2.50	14.05	2.75	13.81	2.74	13.60	2.55	10.60	1.70	9.25	2.56	9.93	2.07
2年	242	14.31	2.55	13.81	3.02	13.27	2.90	13.32	2.74	10.79	1.54	8.81	2.57	10.04	2.03
3年	279	14.42	2.45	13.81	2.80	13.18	2.73	13.34	2.64	10.58	1.72	8.32	2.58	10.21	1.87
1群	648	14.66	2.11	14.31	2.53	14.14	2.18	13.78	2.50	10.83	1.45	9.00	2.57	10.35	1.73
2群	21	11.81	3.41	10.86	3.58	8.57	2.31	10.71	2.17	9.24	2.59	8.05	2.97	7.90	3.14
3群	74	12.92	3.58	12.38	3.40	9.68	2.95	11.85	2.79	10.26	1.94	7.72	2.68	9.24	2.39
4群	44	12.66	3.00	11.73	3.36	11.41	2.53	12.09	2.58	9.36	2.45	7.77	2.01	8.23	2.20

1. 性別×学校の楽しさによる分散分析

友人関係尺度については、学校の楽しさ ($F(3)=28.403, p<.00, \eta^2=.10$) が有意で、多重比較の結果、他群よりも1群の得点が有意に高かった(表4)。

安心感尺度については、性差 ($F(1)=17.534, p<.00, \eta^2=.00$)、学校の楽しさ ($F(3)=32.491, p<.00, \eta^2=.10$) が有意で、多重比較の結果、女子より男子、他群よりも1群の得点が有意に高かった。性別×学校の楽しさは有意傾向であった(表5)。

生活満足尺度については、性差 ($F(1)=16.778, p<.00, \eta^2=.01$)、学校の楽しさ ($F(3)=129.241, p<.00, \eta^2=.32$)、性別×学校の楽しさ ($F(3)$

$=4.309, p<.01, \eta^2=.01$) が有意で、多重比較の結果、男子において他群より1群、2・3群よりも4群、女子において他群よりも1群、学校の楽しさ3・4群において女子より男子の得点が有意に高かった(表6)。

教師支援尺度については、学校の楽しさ ($F(3)=24.558, p<.00, \eta^2=.09$) が有意で、多重比較の結果、他群よりも1群の得点が有意に高かった(表7)。

家族支援尺度については、学校の楽しさ ($F(3)=19.702, p<.00, \eta^2=.07$) が有意で、多重比較の結果、他群より1群、4群よりも1・3群の得点が有意に高かった(表8)。

学業進路尺度については、学校の楽しさ ($F(3)$

表4 性別×学校の楽しさによる友人関係尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2	
全体	507.614	7	72.516	12.854	.00**		
性別	12.851	1	12.851	2.278	.13	.00	
学校の楽しさ	480.709	3	160.236	28.403	.00**	.10	
性別×学校の楽しさ	31.189	3	10.396	1.843	.14	.01	
誤差	4394.736	779	5.642				
多重比較			平均値の差	SE	p	d	
			2群<1群	3.08	.54	.00**	1.43
			3群<1群	1.70	.29	.00**	0.76
			4群<1群	2.00	.37	.00**	0.92

** $p<.01$

表5 性別×学校の楽しさによる安心感尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2	
全体	852.189	7	121.741	17.086	.00**		
性別	124.933	1	124.933	17.534	.00**	.00	
学校の楽しさ	694.503	3	231.501	32.491	.00**	.10	
性別×学校の楽しさ	50.989	3	16.996	2.385	.07+	.01	
誤差	5550.413	779	7.125				
多重比較			平均値の差	SE	p	d	
			女子<男子	1.66	0.40	.00**	0.28
			2群<1群	3.78	0.61	.00**	1.34
			3群<1群	1.86	0.33	.00**	0.73
			4群<1群	2.58	0.42	.00**	1.00

+ $p<.10$, ** $p<.01$

表6 性別×学校の楽しさによる生活満足尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	2162.604	7	308.943	60.484	.00**	
性別	85.698	1	85.698	16.778	.00**	.01
学校の楽しさ	1980.437	3	660.146	129.241	.00**	.32
性別×学校の楽しさ	66.029	3	22.010	4.309	.01**	.01
誤差	3979.023	779	5.108			
多重比較	平均値の差			SE	p	d
男子	2群<1群		5.11	0.64	.00**	2.52
	3群<1群		3.77	0.42	.00**	1.81
	4群<1群		1.72	0.50	.00**	0.85
	2群<4群		3.39	0.79	.00**	1.42
	3群<4群		2.04	0.63	.001**	0.78
女子	2群<1群		6.39	0.81	.00**	2.74
	3群<1群		4.97	0.37	.00**	2.05
	4群<1群		3.74	0.50	.00**	1.60
	2群<4群		2.65	0.93	.03*	1.25
3群	女子<男子		1.45	0.53	.01**	0.50
4群	女子<男子		2.27	0.68	.00**	1.00

** $p<.01$

表7 性別×学校の楽しさによる教師支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	538.366	7	76.909	12.134	.00**	
性別	16.099	1	16.099	2.540	.11	.00
学校の楽しさ	466.958	3	155.653	24.558	.00**	.09
性別×学校の楽しさ	22.944	3	7.648	1.207	.31	.00
誤差	4937.421	779	6.338			
多重比較	平均値の差			SE	p	d
	2群<1群		3.06	0.57	.00**	1.23
	3群<1群		1.85	0.31	.00**	0.76
	4群<1群		1.69	0.39	.00**	0.67

** $p<.01$

表8 性別×学校の楽しさによる家族支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	154.342	7	22.049	8.519	.00**	
性別	3.252	1	3.252	1.257	.26	.00
学校の楽しさ	152.980	3	50.993	19.702	.00**	.07
性別×学校の楽しさ	7.156	3	2.385	0.922	.43	.00
誤差	2016.263	779	2.588			
多重比較	平均値の差			SE	p	d
	2群<1群		1.73	0.37	.00**	1.07
	3群<1群		0.57	0.20	.02*	0.38
	4群<1群		1.47	0.25	.00**	0.96
	4群<3群		0.89	0.31	.02*	0.42

* $p<.05$, ** $p<.01$

=8.863, $p<.00$, $\eta^2=.03$) が有意で、多重比較の結果、3・4群よりも1群の得点が有意に高かった(表9)。

社交性尺度については、性差 ($F(1)=24.615$, $p<.00$, $\eta^2=.03$)、学校の楽しさ ($F(3)=35.354$, $p<.00$, $\eta^2=.12$)、性別×学校の楽しさ ($F(3)=3.751$, $p<.01$, $\eta^2=.01$) が有意で、多重比較の結果、男子

において2・4群より1群、女子において他群よりも1群、4群よりも3群、学校の楽しさ全群において女子より男子の得点が有意に高かった(表10)。

表9 性別×学校の楽しさによる学業進路支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2	
全体	181.364	7	25.909	3.935	.00**		
性別	1.101	1	1.101	0.167	.68	.00	
学校の楽しさ	175.084	3	58.361	8.863	.00**	.03	
性別×学校の楽しさ	8.993	3	2.998	0.455	.71	.00	
誤差	5129.345	779	6.585				
多重比較			平均値の差	SE	p	d	
			3群<1群	1.30	0.32	.00**	0.50
			4群<1群	1.23	0.40	.01*	0.48

* $p<.05$, ** $p<.01$

表10 性別×学校の楽しさによる社交性尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	450.882	7	64.412	18.858	.00**	
性別	84.078	1	84.078	24.615	.00**	.03
学校の楽しさ	362.277	3	120.759	35.354	.00**	.12
性別×学校の楽しさ	38.439	3	12.813	3.751	.01*	.01
誤差	2660.813	779	3.416			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
	男子	2群<1群	1.70	0.52	.01**	0.97
		4群<1群	1.54	0.41	.00**	0.90
	女子	2群<1群	3.79	0.66	.00**	2.12
		3群<1群	1.38	0.30	.00**	0.73
		4群<1群	2.71	0.41	.00**	1.52
		4群<3群	1.33	0.49	.04*	0.55
	1群	女子<男子	0.38	0.15	.01**	0.22
	2群	女子<男子	2.47	0.83	.00**	0.83
	3群	女子<男子	1.06	0.43	.02*	0.45
	4群	女子<男子	1.55	0.56	.01**	0.74

* $p<.05$, ** $p<.01$

2. 学年×学校の楽しさの分散分析

友人関係尺度については、学年差 ($F(2) = 3.940$, $p < .02$, $\eta^2 = .01$)、学校の楽しさ ($F(3) = 30.235$, $p < .00$, $\eta^2 = .10$)、学年×学校の楽しさ ($F(6) = 2.258$, $p < .03$, $\eta^2 = .02$) が有意だったが、学年差の効果量はほとんどなかった。多重比較の結果、1年生において他群よりも1群、2年生において2・3群より1群、3年生において2・4群において1群、学校の楽しさ3群において1年生より3年生の得点が有意に高かった (表11)。

安心感尺度については、学年差 ($F(2) = 4.056$, $p < .02$, $\eta^2 = .01$)、学校の楽しさ ($F(3) = 32.438$, $p < .00$, $\eta^2 = .11$)、学年×学校の楽しさ ($F(6) = 3.004$, $p < .01$, $\eta^2 = .02$) が有意であったが、学年差にはおいて効果量はほとんどなかった。多重比較の結果、1年生において他群よりも1群、2年生において2群より1群、3年生において他群よりも1群、学校の楽しさ3群において他学年よりも1年生の得点が有意に高かった (表12)。

生活満足度尺度については、学校の楽しさ (F

表11 学年×学校の楽しさによる友人関係尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	576.842	11	52.440	9.396	.00**	
学年	43.981	2	21.991	3.940	.02*	.01
学校の楽しさ	506.253	3	168.751	30.235	.00**	.10
学年×学校の楽しさ	75.625	6	12.604	2.258	.03*	.02
誤差	4325.509	775	5.581			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
	1年	2群<1群	4.04	1.19	.00**	1.84
		3群<1群	3.28	0.63	.00**	1.42
		4群<1群	1.60	0.59	.04†	0.73
	2年	2群<1群	3.66	0.91	.00**	1.68
		3群<1群	1.99	0.51	.00**	0.86
	3年	2群<1群	1.89	0.76	.08†	0.91
		4群<1群	2.34	0.53	.00**	1.07
	3群	1年<3年	2.53	0.73	.00**	0.75

* $p < .05$, ** $p < .01$

表12 学年×学校の楽しさによる安心感尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	819.863	11	74.533	10.347	.00**	
学年	58.433	2	29.216	4.056	.02*	.01
学校の楽しさ	700.994	3	233.665	32.438	.00**	.11
学年×学校の楽しさ	129.825	6	21.637	3.004	.01**	.02
誤差	5582.740	775	7.204			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
	1年	2群<1群	5.80	1.35	.00**	2.61
		3群<1群	4.22	0.72	.00**	1.77
		4群<1群	2.85	0.68	.00**	1.25
	2年	2群<1群	3.81	1.03	.00**	1.33
	3年	2群<1群	2.16	0.87	.08†	0.83
		3群<1群	1.34	0.49	.04*	0.52
		4群<1群	2.48	0.60	.00**	0.93
	3群	2年<1年	2.54	0.88	.01*	0.69
		3年<1年	2.58	0.83	.01**	0.79

† $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$

(3) = 126.533, $p < .00$, $\eta^2 = .32$)、学年×学校の楽しさ ($F(6) = 3.136$, $p < .01$, $\eta^2 = .02$) が有意で、多重比較の結果、1年生において2・3群よりも1・4群、2年生において2・3群より1群、2群よりも4群、3年生において他群よりも1群、学校の楽しさ3群において1年生よりも3年生の得点

が有意に高かった (表13)。

教師支援尺度については、学校の楽しさ ($F(3) = 22.580$, $p < .00$, $\eta^2 = .08$) が有意で、多重比較の結果、他群よりも1群の得点が有意に高かった (表14)。

家族支援尺度については、学校の楽しさ ($F(3)$

表13 学年×学校の楽しさによる生活満足尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	2161.090 ^a	11	196.463	38.251	.000 ^{**}	
学年	9.810	2	4.905	0.955	.39	.00
学校の楽しさ	1949.692	3	649.897	126.533	.00 ^{**}	.32
学年×学校の楽しさ	96.637	6	16.106	3.136	.01 ^{**}	.02
誤差	3980.537	775	5.136			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
	1年	2群 < 1群	5.65	1.14	.00 ^{**}	2.61
		3群 < 1群	6.20	0.60	.00 ^{**}	2.83
		2群 < 4群	2.46	0.57	.00 ^{**}	1.35
		3群 < 4群	3.74	0.80	.00 ^{**}	1.51
	2年	2群 < 1群	6.68	0.87	.00 ^{**}	2.97
		3群 < 1群	4.59	0.49	.00 ^{**}	1.95
		2群 < 4群	4.71	1.33	.02 ^{**}	0.87
	3年	2群 < 1群	4.63	0.73	.00 ^{**}	2.18
		3群 < 1群	3.52	0.41	.00 [*]	1.58
		4群 < 1群	3.17	0.51	.00 ^{**}	1.48
	3群	1年 < 3年	2.31	0.70	.03 ^{**}	0.84

^a $p < .05$, ^{**} $p < .01$

表14 学年×学校の楽しさによる教師支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	538.182	11	48.926	7.679	.00 ^{**}	
学年	4.605	2	2.303	0.361	.70	.00
学校の楽しさ	431.572	3	143.857	22.580	.00 ^{**}	.08
学年×学校の楽しさ	34.463	6	5.744	0.902	.49	.01
誤差	4937.605	775	6.371			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
		2群 < 1群	3.13	0.60	.00 ^{**}	1.23
		3群 < 1群	1.94	0.33	.00 ^{**}	0.76
		4群 < 1群	1.60	0.48	.00 ^{**}	0.67

^{**} $p < .01$

= 15.375, $p < .00$, $\eta^2 = .06$) が有意で、多重比較の結果、他群よりも1群の得点が有意に高かった(表15)。

学業進路尺度については、学校の楽しさ ($F(3) = 8.388$, $p < .00$, $\eta^2 = .03$) が有意で、多重比較の結果、3・4群よりも1群の得点が有意に高かった(表16)。

社交性尺度については、学年 ($F(2) = 12.631$, $p < .00$, $\eta^2 = .03$)、学校の楽しさ ($F(3) = 36.396$,

$p < .00$, $\eta^2 = .12$)、学年×学校の楽しさ ($F(6) = 4.814$, $p < .00$, $\eta^2 = .03$) が有意だったが、学年差の効果量はほとんどなかった。多重比較の結果、1・2年生において他群よりも1群、3年生において4群よりも1・3群、学校の楽しさ2・3群において他学年よりも3年生の得点が有意に高かった(表17)。

表15 学年×学校の楽しさによる家族支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2	
全体	163.467	11	14.861	5.738	.00**		
学年	5.405	2	2.703	1.044	.35	.00	
学校の楽しさ	119.461	3	39.820	15.375	.00**	.06	
学年×学校の楽しさ	12.395	6	2.066	0.798	.57	.01	
誤差	2007.138	775	2.590				
多重比較			平均値の差	SE	p	d	
			2群<1群	1.69	0.38	.00**	1.07
			3群<1群	.63	0.21	.02*	0.38
			4群<1群	1.41	0.30	.00**	0.96

* $p < .05$, ** $p < .01$

表16 学年×学校の楽しさによる学業進路支援尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2	
全体	302.820	11	27.529	4.260	.00**		
学年	0.143	2	0.072	0.011	.99	.00	
学校の楽しさ	162.611	3	54.204	8.388	.00**	.03	
学年×学校の楽しさ	42.015	6	7.003	1.084	.37	.01	
誤差	5007.889	775	6.462				
多重比較			平均値の差	SE	p	d	
			3群<1群	1.26	0.33	.00**	.50
			4群<1群	1.43	0.48	.02*	.48

** $p < .01$

表17 学年×学校の楽しさによる社交性尺度の分散分析の結果

	SS	df	MS	F	p	η^2
全体	477.916	11	43.447	12.784	.00**	
学年	85.851	2	42.925	12.631	.00**	.03
学校の楽しさ	371.063	3	123.688	36.396	.00**	.12
学年×学校の楽しさ	98.157	6	16.360	4.814	.00**	.03
誤差	2633.779	775	3.398			
多重比較			平均値の差	SE	p	d
	1年	2群<1群	3.78	0.93	.00**	2.07
		3群<1群	2.62	0.49	.00**	1.40
		4群<1群	2.28	0.46	.00**	1.23
	2年	2群<1群	4.32	0.71	.00**	2.41
		3群<1群	1.02	0.40	.06 ⁺	0.58
		4群<1群	2.32	0.83	.03 ⁺	1.30
	3年	4群<1群	2.01	0.41	.00**	1.21
		4群<3群	1.43	0.50	.03 ⁺	0.64
	2群	1年<3年	3.30	1.09	.01**	1.40
		2年<3年	3.80	0.91	.00**	1.31
	3群	1年<3年	1.63	0.61	.02 ⁺	0.96
		2年<3年	2.22	0.57	.00**	0.26

* $p<.05$, ** $p<.01$

3. 性別×学校の楽しさ別群による学校適応感尺度の相関分析

性別と学校の楽しさ別群で、学校適応感の下位尺度間の相関分析を行った（表18）。

学校の楽しさ1群では、男子は友人関係と生活満足・教師支援・家族支援・社交性との間に、安心感と生活満足・学業進路との間に、生活満足は教師支援・家族支援・学業進路・社交性との間に、教師支援は家族支援・社交性との間に、家族支援は社交性との間に正の相関が認められた。女子は、友人関係と安心感・生活満足・教師支援・家族支援・社交性との間に、安心感と生活満足・学業進路・社交性との間に、生活満足は教師支援・家族支援・学業進路・社交性との間に、教師支援は家族支援・社交性との間に、家族支援は社交性との間に正の相関が認められた。

学校の楽しさ2群では、男子は友人関係と社交性との間に正の相関が認められた。女子は、友人関係と社交性、安心感と学業進路・社交性との間に正の相関が認められた。

学校の楽しさ3群では、男子は友人関係と安心感・生活満足・家族支援・社交性との間に、安心感と家族支援・学業進路・社交性との間に、生活満足と教師支援・家族支援・社交性との間に、教師支援は家族支援と社交性との間に、家族支援は学業進路・社交性との間に正の相関が認められた。女子は、友人関係と安心感・生活満足・教師支援・社交性との間に、安心感と生活満足・社交性との間に、生活満足は教師支援・社交性との間に、教師支援は生活満足との間に、家族支援は学業進路との間に正の相関が認められた。

学校の楽しさ4群では、男子は友人関係と安心感・社交性、生活満足と教師支援との間に、家族支援は社交性との間に正の相関が認められた。女子は、友人関係と生活満足、社交性と友人関係・教師支援との間に正の相関が認められた。

表18 学校適応感下位尺度の相関分析 (性別・学校の楽しさ別群)

		友人関係	安心感	生活満足	教師支援	家族支援	学業進路	社交性
男子1群	友人関係	-	.106	.552**	.568**	.413**	.173**	.675**
	安心感		-	.276**	.024	.020	.395**	.148**
	生活満足			-	.561**	.310**	.268**	.568**
	教師支援				-	.360**	.173**	.503**
	家族支援					-	.024	.372**
学業進路						-	.137*	
女子1群	友人関係	-	.221**	.580**	.523**	.313**	.085	.630**
	安心感		-	.316**	.109	-.019	.368**	.216**
	生活満足			-	.500**	.246**	.202**	.542**
	教師支援				-	.279**	.141*	.488**
	家族支援					-	.111*	.282**
学業進路						-	.066	
男子2群	友人関係	-	.106	.552**	.568**	.413**	.173**	.675**
	安心感		-	.276**	.024	.020	.395**	.148**
	生活満足			-	.561**	.310**	.268**	.568**
	教師支援				-	.360**	.173**	.503**
	家族支援					-	.024	.372**
学業進路						-	.137*	
女子2群	友人関係	-	.666	.624	.212	-.019	.368	.874**
	安心感		-	.672	.126	-.334	.725*	.715*
	生活満足			-	-.049	.078	.566	.562
	教師支援				-	.637	.466	-.201
	家族支援					-	.186	-.483
学業進路						-	.218	
男子3群	友人関係	-	.356*	.601**	.271	.478**	.292	.707**
	安心感		-	.200	.032	.351*	.579**	.434*
	生活満足			-	.437*	.387*	.209	.466**
	教師支援				-	.461**	.092	.400*
	家族支援					-	.370*	.572**
学業進路						-	.143	
女子3群	友人関係	-	.476**	.700**	.506**	.008	.066	.707**
	安心感		-	.413**	.099	-.130	.212	.458**
	生活満足			-	.454**	.160	.253	.671**
	教師支援				-	.216	.099	.373*
	家族支援					-	.422**	.020
学業進路						-	.128	
男子4群	友人関係	-	.476*	.335	.391	.392	.334	.819**
	安心感		-	.361	.185	-.129	.035	.534*
	生活満足			-	.540**	.137	-.074	.329
	教師支援				-	.160	.015	.306
	家族支援					-	-.034	.489*
学業進路						-	.213	
女子4群	友人関係	-	.431*	.205	.403	-.051	.562**	.431*
	安心感		-	.281	-.031	-.170	.083	.246
	生活満足			-	.029	.211	.212	.389
	教師支援				-	.191	.131	.418
	家族支援					-	-.111	.088
学業進路						-	-.016	

* $p < .05$, ** $p < .01$

4. 学年×学校の楽しさ別群による学校適応感尺度の相関分析

次に、学校の楽しさ別群で、学校適応感の下位尺度間の相関分析を行った（表19）。

1年生においては、学校の楽しさ1群は、友人関係と安心感・生活満足・教師支援・家族支援・社交性との間に、安心感と生活満足・学業進路・社交性との間に、生活満足は教師支援・社交性との間に、教師支援は家族支援・社交性との間に、家族支援は社会性との間に正の相関が認められた。2群は、学業進路と安心感・教師支援との間に正の相関が認められた。3群は、友人関係と安心感・生活満足・教師支援・社交性との間に、社交性と生活満足・教師支援との間に正の相関が認められた。4群は、社交性と友人関係・教師支援との間に正の相関が認められた。

2年生においては、学校の楽しさ1群は、友人関係と生活満足・教師支援・家族支援・社交性との間に、安心感との間に生活満足・学業進路との間に、生活満足は教師支援・家族支援・学業進路・社交性との間に、教師支援は家族支援・社交性と

の間に、家族支援は社交性との間に正の相関が認められた。2群は、友人関係と社交性、安心感と生活満足との間に正の相関が認められた。3群は、友人関係と安心感・生活満足、家族支援と学業進路、社交性と友人関係・安心感・生活満足との間に正の相関が認められた。4群は、安心感と教師支援との間に正の相関が認められた。

3年生においては、学校の楽しさ1群は、友人関係と生活満足・教師支援・家族支援・社交性との間に、安心感と生活支援・学業進路との間に、生活満足は教師支援・家族支援・社交性との間に、教師支援は家族支援・社交性との間に、家族支援は社交性との間に正の相関が認められた。2群は、社交性と友人関係・安心感との間に正の相関が認められた。3群は、友人関係と生活満足・教師支援、安心感と学業進路、教師支援と家族支援、社交性と友人関係・生活満足・教師支援との間に正の相関が認められた。4群は、友人関係と安心感・生活満足、安心感と生活満足、社交性と友人関係・安心感・生活満足・家族支援との間に正の相関が認められた。

表19 学校適応感下位尺度の相関分析（学年・学校の楽しさ別群）

		友人関係	安心感	生活満足	教師支援	家族支援	学業進路	社交性
1年生1群	友人関係	-	.238**	.535**	.565**	.403**	.175**	.631**
	安心感		-	.383**	.181**	-.017	.329**	.295**
	生活満足			-	.461**	.194**	.194**	.529**
	教師支援				-	.316**	.193**	.510**
	家族支援					-	.036	.325**
1年生2群	友人関係	-	.580	-.378	.637	.701	.558	.630
	安心感		-	.067	.970*	.683	.981*	.200
	生活満足			-	.211	-.683	.238	.333
	教師支援				-	.555	.994**	.422
	家族支援					-	.544	-.098
1年生3群	友人関係	-	.539*	.681**	.702**	.360	.254	.749**
	安心感		-	.290	.165	.126	.369	.334
	生活満足			-	.457	.198	.227	.741**
	教師支援				-	.286	.134	.592*
	家族支援					-	.486	.447
1年生4群	友人関係	-	.025	-.001	.450	.132	-.167	.723**
	安心感		-	.260	-.110	-.234	-.132	.140
	生活満足				.156	.034	-.073	.124
	教師支援				-	.130	.067	.638**
	家族支援					-	-.433	.176
学業進路						-	-.169	

		友人関係	安心感	生活満足	教師支援	家族支援	学業進路	社交性
2年生1群	友人関係	-	.132	.567**	.502**	.284**	.085	.660**
	安心感		-	.289**	.022	-.037	.436**	.183**
	生活満足			-	.591**	.248**	.288**	.566**
	教師支援				-	.322**	.163 [†]	.446**
	家族支援					-	.082	.226**
	学業進路						-	.093
2年生2群	友人関係	-	.527	.622	.243	.091	.000	.804*
	安心感		-	.907**	-.179	.026	.249	.606
	生活満足			-	.089	.284	.468	.547
	教師支援				-	.620	-.268	.210
	家族支援					-	.231	.091
	学業進路						-	-.285
2年生3群	友人関係	-	.623**	.682**	.117	.230	.192	.563**
	安心感		-	.399	.056	.098	.264	.618**
	生活満足			-	.331	.209	.163	.447*
	教師支援				-	.213	-.113	-.067
	家族支援					-	.419 [†]	.160
	学業進路						-	.066
2年生4群	友人関係	-	-.342	.349	.086	.589	.608	.315
	安心感		-	.514	.889 [†]	-.824	-.689	.679
	生活満足			-	.813	-.351	-.409	.597
	教師支援				-	-.636	-.524	.829
	家族支援					-	.582	-.535
	学業進路						-	.000
3年生1群	友人関係	-	.110	.601**	.568**	.389**	.151 [†]	.632**
	安心感		-	.226**	.015	.062	.366**	.109
	生活満足			-	.530**	.407**	.192**	.595**
	教師支援				-	.323**	.125	.542**
	家族支援					-	.103	.420**
	学業進路						-	.089
3年生2群	友人関係	-	.476	.381	-.566	-.226	.006	.683 [†]
	安心感		-	.522	-.496	-.525	.207	.680 [†]
	生活満足			-	-.119	-.045	.085	.298
	教師支援				-	.330	-.324	-.517
	家族支援					-	.000	-.275
	学業進路						-	-.196
3年生3群	友人関係	-	.085	.571**	.582**	.043	.090	.737**
	安心感		-	.240	.083	-.133	.427 [†]	.309
	生活満足			-	.615**	.315	.307	.607**
	教師支援				-	.351 [†]	.167	.644**
	家族支援					-	.306	.070
	学業進路						-	.086
3年生4群	友人関係	-	.435 [†]	.498 [†]	.196	.528 [†]	.191	.754**
	安心感		-	.530 [†]	.106	-.012	.228	.562**
	生活満足			-	.275	.266	.148	.753**
	教師支援				-	.277	.091	.228
	家族支援					-	.127	.509 [†]
	学業進路						-	.214

* $p < .05$, ** $p < .01$

考 察

分散分析の結果から、学校適応感の下位尺度すべてにおいてコロナ流行前も現在も学校が楽しい1群の得点が最も高かった。他の特徴としては、友人関係においてはコロナ流行前は楽しかったけれど現在学校が楽しくない3群において、1年生よりも3年生の得点が高かった。これは、3年生は中学校生活の長さから1年生よりも友人関係が定着しているためだと考えられる。安心感においては女子よりも男子の得点が高かった。生活満足においては、1年生では1群の得点が最も高く、またコロナ前と異なり現在学校が楽しくない3群より現在学校が楽しい4群の得点が高かったことから、1年生にとっては学校生活全般の満足感や充実感が現在の学校の楽しさに関連していると考えられる。家族支援においては1群の得点が最も高く、また2・4群より3群の得点が有意に高かった。コロナ前と異なり現在学校が楽しくない3群は、休校や分散登校などによって家族との関係が密になったり家の居心地がよくなったりして、学校生活よりも家庭生活が充足している可能性がある。社交性においては3年生では4群より1・3群の得点が有意に高かったことから、他生徒への積極的関わりはコロナ流行前の学校の楽しさと関連していることが示唆される。また、安心感と同様に女子より男子の得点が高かったが、これは思春期における友人関係の持ち方の性差の表れだと考えられる。武蔵・河村(2021)によると、男子は大人数での遊びをもとに友人関係が形成されるのに対し、特に中学生女子においては同調欲求が高まり、友人との類似性を心理的に確認し、内面を共有しながら様々な他者との相互作用を求めるといふ。

相関分析の結果から、学校生活の全体的な満足感や充実感を表す生活満足に注目すると、1群は男女と2年生において他の尺度と相関が認められたが、1年生は教師や友人との対人関係や安心感、3年生は学業進路以外と関係があった。安心感は学級の居心地を表すが、男女、全学年において授業についていけることを表す学業進路と関係があった。2群は2年生において生活満足と安心感に関係があり、安心感については女子において学

業進路・社交性、1年生において教師支援・学業進路、3年生において社交性と関係があった。また男女、全学年とも家族支援と関連のある因子がなかった。コロナ流行前も現在も学校が楽しくない2群は、学年によってその理由に差があるが、家族との関係が大きな影響を与えている可能性がある。3群は、男女、全学年とも生活満足と友人関係・社交性に関連があり、学業進路との間に関係がなかった。安心感について男女と1・2年生で共通していたのは生活満足と同様に友人関係との関連であったが、3年生においては学業進路と関係していた。3年生の場合、受験への意識や不安が学級の居心地と関係があると考えられる。4群は、男子は生活満足と教師支援、女子は友人関係との間に関連があった。コロナ流行前と異なり現在学校が楽しい4群は、男女では理由が異なる可能性が示唆された。3年生は友人との良好な関係と教室の居心地との間に関連があったが、1年生は他生徒への積極的関わりと教師との良好な関係に関連があった。2年生は、教室の居心地の良さや教師との良好な関係に関連があった。コロナ流行前よりも学校が楽しくなったと生徒が感じる要因として教師との関係が要因になっていることが示唆された。

先行研究において、2020年3月の全国一斉休校から約2ヶ月経過した2020年5月時点で勉強の不安を訴えた中学生が69.3%、友達と会えない寂しさを訴えた生徒は70.4%（渡部・戸部、2021）、別の研究では2020年11月時点で勉強の不安を訴えた中学1年生は65%、中学2年生は60%で、友人関係の不安を訴えていた中学2年生は26%で、中学1年生は48%であった（令和2年度 兵庫県教育委員会）。本研究の調査では友人関係と学業進路の得点に学年間の有意差は認められなかったものの、協力者である2021年度入学の中学1年生も2020年度と同様、中学校生活スタート時期と臨時休校が重なり、例年とは異なる学校生活を経験している。さらに複数回の臨時休校を経た調査時期の7月時点で複数の中学校教員が、「今は例年の4月～5月の感じで、学級づくりの段階だ」と述べていたことから、1年生のみならず受験を控えた3年生、学校生活や部活動で中心的役割を担っていく2年生も心理的負担や不安は大きかったと

考えられる。特にコロナ流行前の中学校生活を唯一経験している3年生は学校生活の環境的变化を強く感じ、それが学校適応感や心理面に影響を及ぼしていると考えられるが、それについては別の機会に詳しい分析結果を報告する。

謝辞

調査実施にご協力くださいました関係者の皆様、データ入力にご協力くださいました上間千架登さん、宮國晃平さん、山入端辰也さんに御礼申し上げます。

引用文献

- 藤井壽夫 (2021). コロナ禍における中学生の体調不良とインターネット依存傾向 函館短期大学紀要 48 1-11.
- 兵庫県教育委員会 令和2年度 ひょうご不登校対策検討委員会報告書「コロナ禍における登校支援に向けて」 https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/10futoukou/pdf/01houkoku/r02_houkoku1.pdf
- 国立感染症研究所 (2020). 東京都での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行 (2020年1～5月) IASR 41 146-147.
- 武蔵由佳・河村茂雄 (2021). 小学生、中学生、高校生における友人関係の発達的变化に関する研究 学級経営心理学研究 10 43-52.
- 鈴木久米男・佐藤進・仁昌寺真一・川上圭一・東信之 (2021). 新型コロナウイルス感染症の影響下における小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の現状と課題 岩手大学教育学部附属教育実践 学校安全学研究開発センター研究紀要 1 29-44.
- 渡部千晶・戸部秀之 (2021). 新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休校措置と中学生の意識 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 19 57-63.